

ナニコレ? な文化財

市内で調査を行っている、さまざまなものに出会います。思いがけない貴重なものや、珍しいものなど。よく見知っているものも多いですが、中には何だかわからないものもあります。ここではその中でも特に不思議で興味深く感じた2つを紹介します。

一つは、諸沢地区の鏡泉院入口近くについで最近まであった写真1の建物（現在は撤去されています）。見た目は普通の古い集会所で、実際消防団の詰め所や諸富野村時代に青年団の建物として使われていたようですが、入口に謎の言葉が掲げられているのです（写真2）。

1行目のMOROTONO（諸富野）のみは読めますが、他は薄れていて所々読めず、読めるところでもまず何語かもわからない。戦前に長沢に布教に来ていた宣教師クライスラー関係か？外国帰りの地元住民か？誰かが適当に書いたのか？何を書こうとしたのか？さっぱりわからないのです。

もしわかる方がいらっしゃいましたら文化スポーツ課まで情報をお寄せください！



▲写真1



▲写真2 入口看板（文字が見やすいように加工しています）

二つ目は、上小瀬の川西地区にある石仏です。崖の上にさまざまな石造物が祀られており（写真3）、地元ではこれらを「六地藏」といい、毎年お盆には灯籠をつけて供養するそうです。

近くには小さな観音堂もあり、こちらでも春と秋にお祭りをするそうです。かつては茅葺の大きな建物で「カンチさん」と呼ばれる管理人が代々いたそうで、地域にとって重要な祭りの場所であったと推測できます。

庚申塔や馬頭観音像などほかの地域でも見られる石塔群の中で、ひときわ目を引くのが「栗嶋大明神」と刻まれた石です（写真4）。

栗嶋大明神とは、天照大神の娘で住吉明神の妃であったが病気のため淡島に流されたという伝説があり、婦人病治癒の神様とされています。

素人が彫ったような浅い線で描き出されており、非常に味わい深い顔立ちです。初見で見たときは知識がなく、思わず「ナニコレ?」と思ってしまったのですが、少し調べてみると、昔の人が病気の平癒を願う懸命に彫ったものだろうか…と想像ができ、ありがたい神様に思えました。



▲写真3 六地藏



▲写真4 拓本

「文化財」というのは、国・県・市といった指定を受けているものだけでなく、「その地域の歴史や文化を象徴するもの」という意味でも使われます。文化財やそれにまつわる伝承が失われることは、その地域の歴史や文化の一部が失われるということです。

もし身近に古くてわからないものがあったら、是非本で調べたり地元の方に聞いてみてください。思いがけない発見と出会えるかもしれません。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)